

横断的事項 (その3)

診療報酬に係る事務の効率化・合理化及び診療報酬の情報の利活用等を見据えた対応について②

2. 対応方針 (案)

(2) 課題別の対応の方向性 (案)

【診療報酬に係る情報の利活用】

- ⑤ 診療行為コードが実臨床に即したコード体系になっていない。
- ⑥ 傷病名や診療行為の選択が統一されていない。国際的に標準化された用語や分類を参照したマスター等の整備・普及が重要。

(現状)

- 診療行為の請求コードのうち、手術分類 (K コード) については、診療報酬改定毎に、様々な追加等を行い対応してきたが、手術手技を分類するものとして十分に体系化されていないことから、イノベーションの進展に伴い手術の多様化・高度化等が進む中で、一定の限界が指摘されている。
- 一方、臨床的な観点から体系的に整理されている手術手技の分類として、外科系学会社会保険委員会連合 (外保連) が作成する外保連手術試案があり、日本国内で広く活用されている。
- なお、国際的には、手術を含めた医療行為分類の国際的標準化に向け、WHO で医療行為の国際分類 (International Classification of Health Interventions (ICHI)) の検討が進んでいる。

(対応案)

- 日本国内で広く受け入れられ活用されている外保連手術試案の手術の基幹コード7桁 (STEM7) を、現在の K コードの再編に活用可能かを検討する。
- 平成30年度改定では、データ提出加算で提出を求めているデータにおいて、KコードにSTEM7を併記する欄を設け、データを収集する。
- その後、平成30年度以降、STEM7の入力状況、KコードとSTEM7の対応関係、報酬算定への影響等を確認・整理しつつ、再編の手順等について具体的な対応を検討する。

<参考：KコードとSTEM7の例>

<p>Kコードの体系 K○○○（K+3桁数字、一部枝番有り） 1 ※ 2 ※ . . （※ Kコードの内訳として、部位や手術の詳細等で細分類があるが一定のルールはない）</p>	<p>STEM7の体系 Q○○○○（Q+6桁数字） 部位 ↓ 新基本操作 ↓ アプローチ方法 ↓ アプローチ補助器械</p>
<p>【例1】 <u>K529 食道悪性腫瘍手術（消化管再建手術を併施するもの）</u> 1 頸部、胸部、腹部操作によるもの 2 胸部、腹部の操作によるもの 3 腹部の操作によるもの</p>	<p>【左記に対応するSTEM7の例】 <u>Q141300 食道悪性腫瘍手術（消化管再建を伴う）（頸部、胸部、腹部操作）（血管吻合を伴わない）</u> Q14：胸部食道 13：広範切除 0：open surgery 0：なし</p>
<p>【例2】 <u>K657-2 腹腔鏡下胃全摘術</u> 1 単純全摘術 2 悪性腫瘍手術</p>	<p>【左記に対応するSTEM7の例】 <u>Q211311 胃悪性腫瘍手術（全摘）（腹腔鏡下）</u> Q21：胃 13：広範切除 1：経皮的 1：内視鏡</p>